

## 幼少期における親子関係の親密度と摂食行動の関連

C 班

### 問題と目的

女性をターゲットにした雑誌などのメディアでダイエットによく焦点が当てられることから、現代社会において、痩せていることが評価される傾向にある。そのため、多くの女性は痩身傾向にあり、それに伴って摂食障害傾向も高いことが推測される。大坪(2000)が女子大生に行った実験で、ダイエット商品において、効能についての科学的根拠がその商品の効果性に関する購買動機に促進的な影響を持つことが示唆されたことから、女性は自身が痩せることを望んでいることが窺える。中でも特にその傾向が強い女性は、他者からの評価を強く求めるため、痩せようとするのではないだろうか。

我々は、その動機には幼少期の親子関係が関係しているのではないかと考えた。養育者との関係は、過去から現在まで通して繋がっており、青年期の発達課題であるアイデンティティの確立にも影響を与えている。エリクソン(1973)によるとアイデンティティの確立は、一貫性、斉一性、連続性から自己肯定感を得ることができる。しかし、葛藤なしに親の敷いたレールの上を歩いてきた子供や、親子の関係が希薄、混乱した家庭で育った子供は、アイデンティティの確立が妨げられていることがあり、否定的な部分も受け入れ、自己を肯定しにくい傾向がある。澤村・岡本・浅川・水野(2013)によると、幼少期に充分に要求を母親に受け入れられると、「自分は受け入れられる価値のある存在」として安心感を得ることができるが、逆に、要求を受け入れてもらえない場合は、「自分は受け入れてもらうことができない価値のない存在である、相手は自分を愛していない」として自他ともに否定的に認知するという。また、櫻井(2007)によると、乳幼児期に親と子の間に安定した情緒的な絆が形成されると、子どもは後に経験する社会において「自分は社会に受け入れられる存在である」と認識するようになるという。

痩身傾向が強い女性は、幼少期に母親に要求を受け入れてもらえなかったことや、乳幼児期に親と子の間に安定した情緒的な絆が形成されなかったことから、アイデンティティの確立が妨げられたため、自分に価値がないと感じ、世間で評価される「痩せている」という価値に固執する傾向が高いのではないだろうか。そして痩せるために食事制限をした結果、摂食障害傾向も高くなるのではないだろうか。

これらのことから、摂食行動の背景には養育者との親密性が関係していると考えられる。そこで、我々は摂食障害の要因として従来指摘されている母子関係のみならず、父親やその他の養育者の関係にも焦点を当て、幼少期における最も身近な養育者との親密性が低い場合、その人の痩身願望・摂食障害傾向が高いか検討する。

## 方法

**調査日時** 2014年5月28日13時20分～13時30分

**調査参加者** S大学に所属する女子学生101名に実施し、有効回答数は95名であり、有効回答率は94%で、全員女性であった。

**調査材料** アンケート用紙

### ① フェイスシートでの質問

幼少期に仲の良かった養育者は、という質問をフェイスシートで行った。回答法は父親・母親・その他、に丸を打ってもらい、その他は記述式にて実施した。

### ② 幼少期の親子における親密尺度

概念的定義を親子関係における親密度の高さは、親子における内的・外的関わりが良好であることと定義し、我々が作成した。4件法、全30項目にて実施。下位尺度は「行動的親密性」「精神的親密性」の2つを想定した。項目内容については、表1を参照。

### ③ 摂食態度傾向尺度

石沢・田名場・芳野(2002)摂食態度傾向尺度を使用した。4件法、全17項目にて実施。下位尺度は「痩せ願望」「摂食コントロール」「カロリーへのとらわれ」であり、神経性無食欲症の症状を判定する尺度を基に、一般でも回答可能な質問紙に変更したものである。項目内容は表2を参照。

**手続き** 調査参加者全員に幼少期のことを思い浮かべてもらい、親子関係と現在の摂食行動についての質問項目に答えてもらった。回答方法は1あてはまらない、2ややあてはまらない、3ややあてはまる、4あてはまる、の数字に○を打ってもらった。これを幼少期の親子関係について、現在の摂食行動についての全47項目すべてに回答してもらった。

表1 幼少期の親子における親密度の質問紙の項目案

下位尺度1 行動的親密性	
1) 親と遊んでいた	
2) 親と出かけていた	
3) 親と一緒に食事をしていた	
★ 4) 親は家にいなかった	
5) 親とのスキンシップが多かった	
6) 親と会話をした	
7) 親とお風呂に入っていた	
8) 親に添い寝してもらっていた	
9) 親に物を与えられた	
10) 親は自分に肯定的だった	
★ 11) 親に理不尽な理由で怒られた	
★ 12) 親によく甘えることが出来なかった	
13) 親に悩みを話した	
14) 親は自分を褒めてくれた	
15) 親の手伝いを進んで行った	
★ 16) 親と口を利きたくなかった	
下位尺度2 精神的親密性	
1) 親といると安心した	
★ 2) 親の機嫌を窺っていた	
★ 3) 親とは心が通じ合っていた	
4) 親は自分に期待していた	
5) 親は自分を心配してくれていた	
6) 親は自分の味方をしてくれた	
★ 7) 親のことを考えたくなかった	
8) 親のことを尊敬していた	
★ 9) 親のようにならなかつた	
10) 親を誇りに思っていた	
11) 親の期待に応えようとした	
12) 親に感謝していた	
★ 13) 親をうっとうしいと感じた	
14) 親のことを信頼していた	
★逆転項目	

表2 摂食態度傾向尺度

下位尺度1 痩せ願望	
1) 太るのがとても怖い	
2) もっと細くなりたいという思いで頭がいっぱいである。	
3) 自分は身体に脂肪がつきすぎているのではないかと思う。	
4) 他の人はみんな私より細いと思う。	
下位尺度2 摂食コントロール	
1) 自分が食べる食物のカロリーが気になる。	
2) 炭水化物(パン、ご飯など)は食べないように特に気を付けている	
3) カロリーを燃焼させるために、一生懸命運動する。	
4) 私は食べ物のことに関しては、自己規制をしているつもりだ。	
5) 甘い物を食べた後、気になってしょうがない。	
6) ダイエットに取り組んでいる。	
7) おいしいような物が目の前にあっても我慢する。	
★ 8) 食べたい物を我慢してやせるくらいなら食べた方がいいと思う。	
下位尺度3 カロリーへのとらわれ	
1) 食べる前に、太るのではないかと不安になる。	
2) 食べた後、食べなければよかったととても後悔する。	
3) 運動しているとき、カロリーが燃焼していることを考える。	
4) 低カロリーの物を選んで食べるようにしている。	
5) 食事をするときは食べ物のカロリーが気になる。	
★逆転項目	

結果

(1) 初めに、データ整理を行った。得られたデータに整理番号をつけ、質問項目に欠損があれば、データ処理の対象外とした。フェイスシート of 幼少期における最も身近な養育者は誰か、という質問に対しては、父親が5人、母親が66人、祖父母など、その他が24人であった。

(2) 幼少期における親子関係の新密度尺度30項目を3因子に設定し、主因法・Promax回転による因子分析を行い、その結果を表3に示した。

表3 幼少期における親子の親密度尺度の因子分析結果(Promax回転後の因子パターン)

因子名	質問項目	因子		
		1	2	3
信頼	1.親のことを尊敬していた	.884	-.197	.019
	12.親を誇りに思っていた	.794	-.173	.189
	24.親のことを信頼していた	.670	.206	-.011
	21.親に感謝していた	.670	.241	-.190
	3.親の手伝いを進んで行った	.653	-.295	-.001
	4.親の期待に応えようとした	.623	-.221	-.441
	15.親は自分に肯定的だった	.574	.080	.014
	16.親は自分に期待していた	.571	-.064	-.387
	*6.親とは心が通じ合っていた	-.519	-.149	-.178
	2.親は自分の味方をしてくれた	.512	.269	.089
行動	7.親といると安心した	.501	.060	.236
	29.親に悩みを話した	.458	.126	.042
	23.親は自分を褒めてくれた	.431	.265	.040
	*27.親のようにならなかつた	.382	.128	.361
	10.親とのスキンシップが多かった	.364	.275	.146
	28.親と出かけていた	.057	.728	.003
	26.親に物を与えられた	.146	.723	-.325
	*20.親によく甘えることが出来なかった	-.296	.695	.365
	8.親と遊んでいた	.152	.569	-.016
	14.親と一緒に食事をしていた	.017	.545	-.217
反抗心	18.親は自分を心配してくれていた	.311	.519	-.183
	19.親に添い寝してもらっていた	-.210	.489	.077
	22.親とお風呂に入っていた	.051	.422	.157
	*30.親の機嫌を窺っていた	-.089	-.023	.716
	*5.親をうっとうしいと感じた	-.030	-.278	.643
	13.親のことを考えたくなかった	.258	-.011	.618
	*25.親と口を利きたくなかつた	.308	.014	.556
	*11.親に理不尽な理由で怒られた	.134	.039	.526

\*は逆転項目

当初、行動的親密性と精神的親密性の2因子に設定していたが、因子分析の結果、3因子構造が妥当であるとされた。「親は家にいなかった」、「親と会話をした」の2項目は因子負荷量が.35未満のため、分析から削除した。第1因子では「親のことを尊敬していた」、「親を誇りに思っていた」、「親のことを信頼していた」、「親の期待に応えようとした」など15項目から構成されており、親との心の関係性がみられるため、「信頼」と命名した。第2因子は「親と出かけていた」、「親に物を与えられた」、「親と遊んでいた」、「親と一緒に食事をしていた」など8項目構成されており、動作を伴った関係性のため、「行動」とし、第3因子は「親の機嫌を窺っていた」「親をうっとうしいと感じた」「親のことを考えたくなかつた」

た」など5項目から構成されており、親に対してのマイナス感情のため、「反抗心」と命名した。

(3)「幼少期における親子関係の親密性尺度」の3因子の平均、SD、 $\alpha$ 係数を算出し、その結果を表4に示した。

**表4 幼少期における親子関係の親密性の因子ごとの平均・SD・ $\alpha$ 係数**

	平均値	SD	$\alpha$
信頼	3.048	.465	.836
行動	3.324	.529	.789
反抗心	2.971	.649	.757

「信頼」は平均値=3.048、SD=.465であった。「行動」は平均値=3.324、SD=.529であった。「反抗心」は平均値=2.971、SD=.649であった。また、これらの信頼性を確認するために $\alpha$ 係数を算出したところ、「信頼」では $\alpha$ =.836、「行動」では $\alpha$ =.789、「反抗心」では $\alpha$ =.757となり、信頼性があると判断された。

(4)幼少期における親子関係の親密度尺度の下位尺度間の相関を求めた。その結果を表5に示した。

**表5 幼少期における親子関係の親密度尺度の下位尺度の相関係数**

	信頼	行動	反抗心
信頼	-	0.611	0.406
行動		-	0.413
反抗心			-

相関係数は1%水準で優位(両側)。

「信頼」と「行動」には中程度の正の相関がみられ、( $r=.611, p<.01$ )「信頼」と「反抗心」にも正の相関がみられた( $r=.406, p<.01$ )。そして「親との行動面」と「親への反抗」に正の相関がみられた( $r=.413, p<.01$ )。

(5)「幼少期における親子関係の親密尺度」と「摂食態度傾向尺度」の相関を求めた結果を表6に示した。

**表6 幼少期における親子の親密尺度と摂食態度傾向尺度の相関係数**

	摂食態度傾向
信頼	.047
行動	-.036
反抗心	-.172

相関係数は1%水準で優位(両側)。

親との親密度の3因子と摂食態度傾向尺度には、相関がみられなかった。

## 考 察

結果から、親子関係と摂食行動に相関が見られなかったため、幼少期における最も身近な養育者との親密性が低い場合、その人の瘦身願望・摂食障害傾向が高い、という仮説は検証されなかった。しかしながら、今回作成した尺度である、幼少期の親子関係における新密度尺度内での因子どうしの相関はみられ、また、これらの因子の信頼性は検証されたため、この尺度は信頼性の高い妥当な尺度であると考えられる。

親子関係と摂食行動に相関が見られなかった理由として、現代の摂食行動の根源が社会的なマスメディアの影響に起因するからなのではないか、と考えられる。石田・伊達・渡邊・吾妻・稲富・田中・太田(2001)は「マスメディアの影響によりやせていることが高く評価される風潮がある」と述べている。また、今回我々が質問紙を実施した大学生は石田・伊達ら(2001)によると「高校生、大学生は流行に敏感であり、最も自分の体形を気に掛ける世代であるために、こうした社会風潮の影響を受けやすいと予測される」という事から、よりマスメディアの影響を受けやすく、その事が親子関係よりも大学生の摂食行動に影響を与えているのではないかと考えられる。このことから、大学生の摂食行動とは親子関係よりも社会的要因が大きいと考えられる。

また、もう一つの理由として、母親との信頼感が影響しているのではないかと考えられる。幼少期における最も身近な養育者は誰か、という質問に対して、母親と回答した人は66人と圧倒的に多かった。しかしながら、今回の分析では、母子関係に絞った解釈を行っていない。そのため、親子関係ではなく、母子関係の影響が強いのではないかと、という仮説が生まれた。

これらの理由から、マスメディアとの関係、母子関係との関係、この二つを検討することを今後の課題とした。

## 引用文献

E・H・エリクソン著 1973 「自我同一性」-アイデンティティとライフサイクル- 訳編 小此木啓吾 p.150-153

石田彩子・伊達真理子・渡邊陽子・吾妻ゆみ・稲富宏之・田中悟郎・太田保之 2001 女子短大生の食行動と社会・心理的要因 長崎大学医学部保健学科紀要 14(2),p35-41

石沢智美・田名場美雪・芳野晴男 2002 大学生の体型不安と食行動との関連について 弘前大学保健管理概要 23,5-14

大坪靖直 2000 ダイエット広告の内容が購買動機に及ぼす効果 日本教育心理学会総会発表論文集 42 p.572

櫻井登世子 2007 摂食行動におよぼす親子関係の影響 田園調布学園大学紀要 1 p.127-138

澤村貫太, 岡本永佳, 浅川徹也, 水野(松本) 由子 2013 親子の愛着関係と青年期における気分状態・心身状態との関連性 総合健診 40(2) p. 253-258

## 幼少期における親子関係の親密度と摂食行動 調査のお願い

本日は調査にご協力いただき、ありがとうございます。

この調査は、現在の摂食行動が幼少期の親子関係と関連しているかを調べるために行うものです。間違った答えというものはありません。思った通りに答えてください。

この調査は2つのパートで構成されています。また、表紙をあわせて6枚からなっていますので、乱丁・落丁がありましたら申し出てください。

結果はすべて統計的に分析され、プライバシーは守られますので、思ったままに率直にお答えください。

それぞれの質問をよく読み、全ての質問について答えてください。回答もれのないようにお願いします。

まず、以下の欄を記入してください。

年齢 \_\_\_\_\_ 歳

幼少期によく接していたのは 父 ・ 母 ・ その他 ( \_\_\_\_\_ )

集計結果は授業担当教員（安立奈歩）のホームページに公表予定です。興味をもたれた方は<http://www.hs.sugiyama-u.ac.jp/~adachi/> にアクセスして「学生の論文・研究」をご覧ください。

桐山女学園大学人間関係学部心理学科 演習 I  
C班

次の項目について、**小学校低学年の頃**の自身にどの程度あてはまるかをお答えください。  
 他からどう見られているかではなく、あなたが、あなた自身をどのように思っているかを、ありのままにお答えください。

例：楽天的である

○ よい回答

あてはまらない	ややあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
1	2	3	4

× 悪い回答

あてはまらない	ややあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
1	2	3	4

- |                    |       |   |   |   |   |
|--------------------|-------|---|---|---|---|
| 1. 親のことを尊敬していた     | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 親は自分の味方してくれた    | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 親の手伝いを進んで行った    | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 親の期待に応えようとした    | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 親をうとうしいと感じた     | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 親とは心が通じ合っていた    | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 親といると安心した       | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 親と遊んでいた         | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 親は家にいなかった       | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 親とのスキンシップが多かった | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |

- |                      |       |   |   |   |   |
|----------------------|-------|---|---|---|---|
| 11. 親に理不尽な理由で怒られた    | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 12. 親を誇りに思っていた       | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 13. 親のことを考えなくなかった    | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 14. 親と一緒に食事をしていた     | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 15. 親は自分に肯定的だった      | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 16. 親は自分に期待していた      | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 17. 親と会話をした          | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 18. 親は自分を心配してくれていた   | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 19. 親に添い寝してもらっていた    | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 20. 親によく甘えることが出来なかった | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 21. 親に感謝していた         | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 22. 親とお風呂に入っていた      | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 23. 親は自分を褒めてくれた      | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 24. 親のことを信頼していた      | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 25. 親と口を利きたくない       | ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |

あてはまらない  
ややあてはまらない  
ややあてはまる  
あてはまる

26. 親に物を与えられた ..... 1 2 3 4
27. 親のようになりたくなかった ..... 1 2 3 4
28. 親と出かけていた ..... 1 2 3 4
29. 親に悩みを話した ..... 1 2 3 4
30. 親の機嫌を窺っていた ..... 1 2 3 4

次の項目について、**現在の**自身にどの程度あてはまるかをお答えください。  
他からどう見られているかではなく、あなたが、あなた自身をどのように思っているかを、ありのままにお答えください。

あてはまらない  
ややあてはまらない  
ややあてはまる  
あてはまる

例: 楽天的である ○ よい回答



× 悪い回答



あてはまらない  
ややあてはまらない  
ややあてはまる  
あてはまる

1. おいしそうな物が目の前にあっても我慢する。 ..... 1 2 3 4
2. 他の人はみんな私より細いと思う。 ..... 1 2 3 4
3. カロリーを燃焼させるために、一生懸命運動する。 ..... 1 2 3 4
4. 甘い物を食べた後、気になってしょうがない。 ..... 1 2 3 4
5. 自分が食べる食物のカロリーが気になる。 ..... 1 2 3 4
6. 自分は身体に脂肪がつきすぎているのではないかと思う。 ..... 1 2 3 4
7. ダイエットに取り組んでいる。 ..... 1 2 3 4
8. 私は食べ物に関しては、自己規制をしているつもりだ。 ..... 1 2 3 4
9. 食べた後、食べなければよかったととても後悔する。 ..... 1 2 3 4
10. 食事をするときは食べ物カロリーが気になる。 ..... 1 2 3 4

や  
 や  
 あ  
 あ  
 は  
 は  
 ま  
 ま  
 ら  
 ら  
 な  
 な  
 い  
 い  
 1 2 3 4

11. 食べたい物を我慢してやせるくらいなら食べた方がいいと思う。 ……

1 2 3 4

12. 運動しているとき、カロリーが燃焼していることを考える。 ……

1 2 3 4

13. 低カロリーの物を選んで食べるようにしている。 ……

1 2 3 4

14. 太るのがとても怖い ……

1 2 3 4

15. もっと細くなりたいという思いで頭がいっぱいである。 ……

1 2 3 4

16. 炭水化物(パン、ご飯など)は食べないように特に気を付けている ……

1 2 3 4

17. 食べる前に、太るのではないかと不安になる。 ……